



2月宣伝販売会

令和2年度産タンカン 出荷終了

2月から始まったJA種子屋久タンカンの出荷が3月中旬で終了しました。

令和2年度産の出荷量は358ト（前年比97%）。販売高は、1億2090万円（前年比99%）と平年並みとなりました。

JA管内で約8割を占める鹿児島ブランド「屋久島たんだん」は、台風の影響やヒョドリによる被害で、出荷量が前年より3%減少し、313

トにとどまりました。

タンカンは、くみあい食品やJA直売所のぽんたん館のギフトを中心に販売しました。

2月には、鹿児島市の「おいどん市場与次郎館」で宣伝販売会も実施し、賑わいを見せました。

JA営農販売課の鎌田忠明課長は「令和3年度では、自然災害や鳥獣害の対策を含め、安定した出荷と有利販売に努めていきたい」と話しました。



令和3年度4月せり 価格昨年比20%高

JA種子島家畜市場では4月8日から2日間、令和3年度最初の子牛せり市を開きました。

JA管内から黒毛和種の雌牛357頭、去勢365頭の合計722頭が上場され、うち630頭の取引が成立しました。

平均取引価格は、雌で66万7574円（前年比105.9%）、去勢で76万7458円（前年比109.0%）、総平均は72万5443円（前年比104.2%）、最高価格は雌で100万2000円（前年比112.8%）、去勢で109万5000円（前年比112.8%）。売り上げは4億5702万9000円（前年比125.5%）。

いずれも前回市場を上回る好成績となりました。

新型コロナウイルスが感染拡大を始めた昨年4月市場の



総平均価格（60万5530円）と比べると19.8%増の大幅な高値取引となり、前回の2月せり市から期間が開いたことで、上場頭数が増え、多くの購買者も参加し活発なせり市となりました。

JA畜産部大山裕久部長は「新型コロナウイルスの影響により価格が低下した時期もあったが、回復傾向にある。生産者指導も徹底し、安定した取引を行えるよう尽力したい」と話しました。次回せり市は5月18日・19日に行われます。